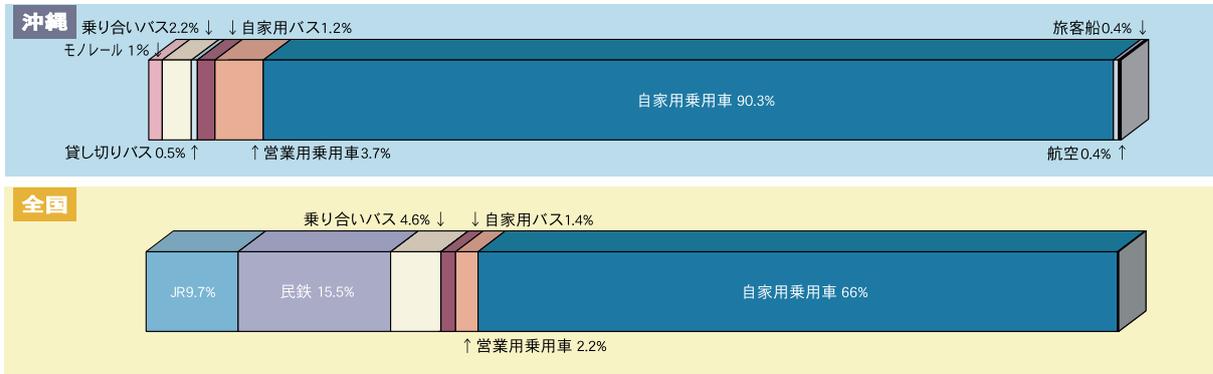


# 1. 機関別旅客輸送分担率の比較(域内量)

全国では、全旅客輸送(域内)のうち約3割を鉄道で分担していますが、本県では、陸上交通のほとんどを自動車に依存しており、道路の役割は重要です。

特に自家用乗用車の分担率は年々上昇を続け、平成21年度には約9割となっています。



資料：「平成21年度 旅客地域流動調査」

# 2. 自動車保有台数

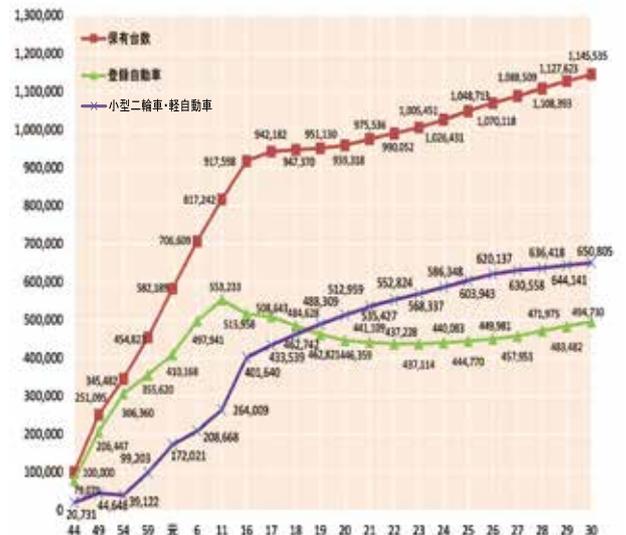
県内の自動車保有台数は年々上昇を続け、復帰時の昭和47年度に比べ、平成30年度末には約5倍となり、一世帯に約1.7台になりました。

## 自動車三輪以上の保有率

	項目	S47年度末	H30年度末	伸び率
沖縄	自動車保有台数 (千台)	198	1,085	5.48
	人口 (千人)	981	1,476	1.50
	世帯数 (千世帯)	237	654	2.76
	人口一人当たりの保有率 (台/人)	0.20	0.74	3.64
	一世帯当たりの保有率 (台/世帯)	0.84	1.66	1.99
全国	自動車保有台数 (千台)	21,547	77,964	3.62
	人口 (千人)	107,332	127,444	1.19
	世帯数 (千世帯)	29,577	58,527	1.98
	人口一人当たりの保有率 (台/人)	0.20	0.61	3.05
	一世帯当たりの保有率 (台/世帯)	0.73	1.33	1.83

資料: 1. (人口、世帯数)は、総務省自治行政局「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(平成31年1月1日現在)」による。  
2. (自動車保有台数)は、社団法人 日本自動車工業会「自動車統計月報(2019年6月号)」による。

(台) 自動車保有台数の推移

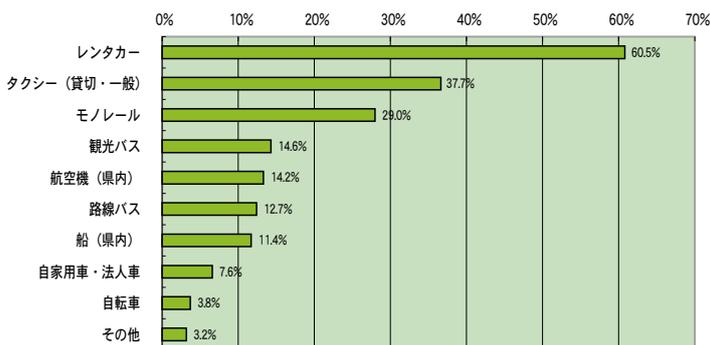


(注): 各年度末の数値である。  
資料: 沖縄総合事務局陸運事務所「業務概況(令和元年度版)」

# 3. レンタカーの状況

沖縄を訪れた観光客の移動手段はレンタカーが最も多く、また、レンタカー事業所の推移を見ると毎年増加傾向にあり、平成30年度には812事業所(営業所含む)、許可車両台数41,249台となっています。平成12年度と比べて比較すると、事業所数で7.4倍(703事業所増)、車両台数で4.6倍(32,367台増)となっています。

## 利用交通機関



資料: 平成30年度観光統計実態調査

レンタカー事業所数及び許可車両台数の推移



沖縄総合事務局陸運事務所「業務概況(令和元年度版)」

## 4. 交通量 (平成27年度全国道路・街路交通情勢調査より)

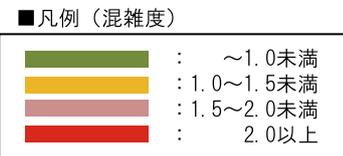
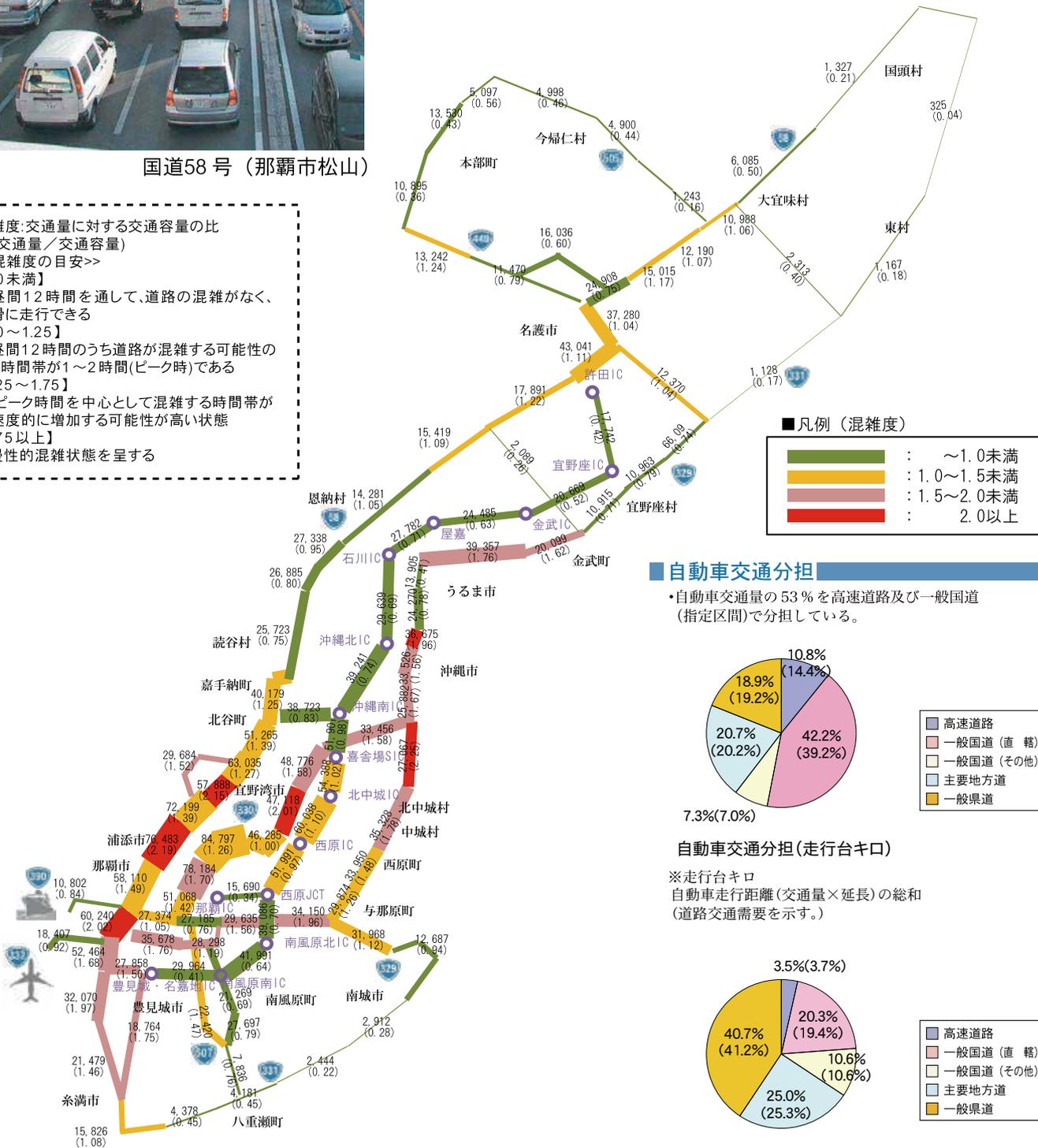


国道58号 (那覇市松山)

沖縄本島における幹線道路の交通量は図示の状況です。  
那覇市を中心とする中南部で多くなっており、混雑度も高く道路網や交通容量の不足が原因と思われる交通渋滞が発生しています。  
(数値は、24時間自動車類交通量(台/24h)、括弧は混雑度を示す。)

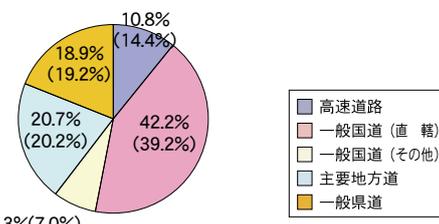
交通の現状

混雑度:交通量に対する交通容量の比  
(=交通量/交通容量)  
<<混雑度の目安>>  
【1.0未満】  
昼間12時間を通して、道路の混雑がなく、円滑に走行できる  
【1.0~1.25】  
昼間12時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が1~2時間(ピーク時)である  
【1.25~1.75】  
ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速的に増加する可能性が高い状態  
【1.75以上】  
慢性的混雑状態を呈する



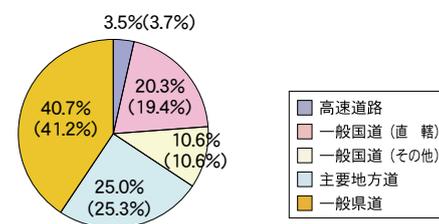
### 自動車交通分担

・自動車交通量の53%を高速道路及び一般国道(指定区間)で分担している。



### 自動車交通分担(走行台キロ)

※走行台キロ  
自動車走行距離(交通量×延長)の総和(道路交通需要を示す。)



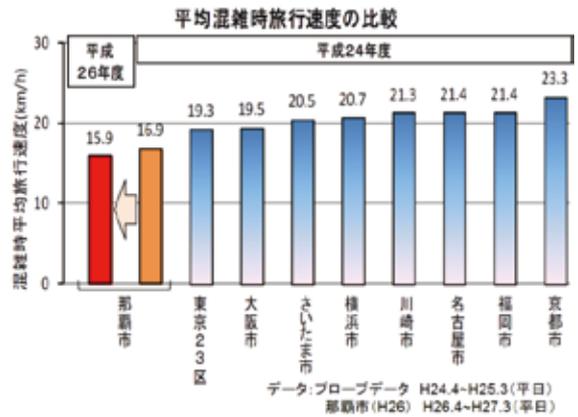
道路別延長割合  
( ) 書は H22 センサスの数値

## 5. 渋滞状況

### 三大都市圏と同等の渋滞状況

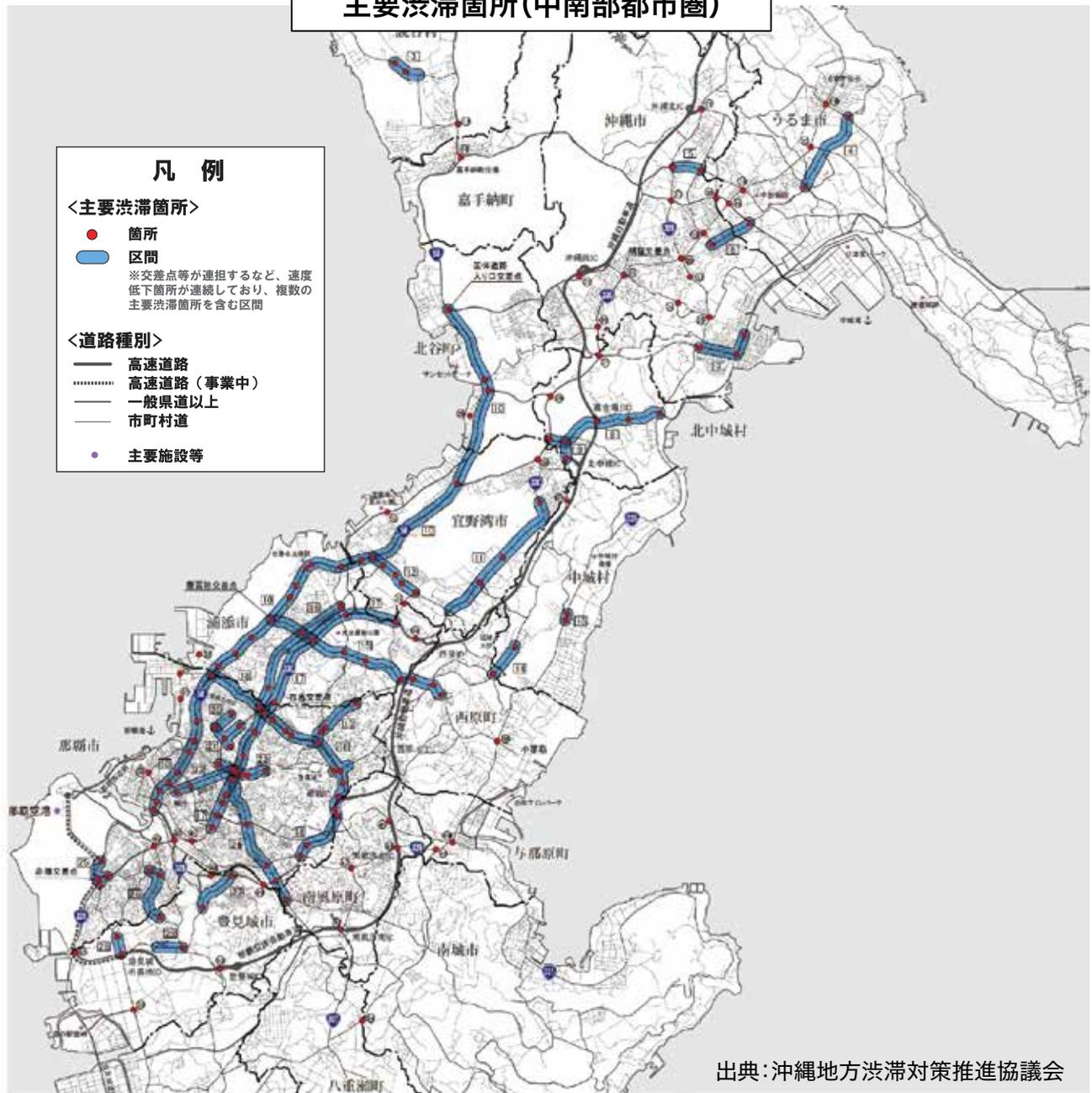
那覇市、浦添市及び沖縄市等における道路混雑時の旅行速度は、東京23区などの三大都市圏と同等の低い水準となっています。

沖縄県の厳しい道路交通渋滞の緩和・解消を図るため、「沖縄地方渋滞対策推進協議会」において関係機関が協力し、対策の検討・実施に取り組んでいます。



出典:平成28年度第2回沖縄地方渋滞対策推進協議会記者発表資料

### 主要渋滞箇所(中南部都市圏)



出典:沖縄地方渋滞対策推進協議会